



地域社会との共存共栄、 持続可能な未来の創造を目指して

和歌山大学 学長／紀伊半島価値共創基幹 基幹長

本山 貢

和歌山大学学長および紀伊半島価値共創基幹長として、ご挨拶を申し上げます。

和歌山大学は令和5年度から新たに「未来を切り拓く知の舞台」というキャッチフレーズを掲げ、総合大学としての使命に基づいた基本理念を明確にし、教育、研究、多様性の尊重と協同の精神、地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造、世界に開かれた視野、well-beingの追求の6項目を掲げ内容を示しました。また、行動指針として、アントレプレナーシップの育成、地域社会との共存共栄の創造、国際交流の活性化、ステークホルダーとの協力の4項目を重点的な取り組みとして掲げ、短期中期的なビジョンを示しています。

さて、近年、和歌山県唯一の地方国立大学としての期待は高まり、地方に位置する国立大学への地域からの要望や期待が増しています。この中で、地域・社会連携と共存共栄は欠かすことのできない課題であり、その貢献度を高めるためには一段の努力が不可欠だと実感しています。特に和歌山県や県内自治体の行政機関、地元産業界、地方に位置する国公立大学全体で戦略的なパートナーシップを築くことが重要であると考えています。

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹は、これまでに紀伊半島の地域社会との共創を目指し、持続可能な地域社会の実現に向けて教育・研究を基礎として取り組んできました。紀伊半島は、自然に満ち溢れ、豊かな歴史や文化を有する地域として知られています。しかし、和歌山県は少子高齢化の進行、人材不足に起因する農林水産業の衰退など多岐にわたる厳しい課題に直面しています。さらには、well-beingの充実、脱炭素社会・カーボンニュートラル、データサイエンス、地域循環資源、防災、グローバルな思考による高度人材育成で地域産業を支える必要性も浮かび上がり、これらの課題解決に向けて具体的に戦略を持って総力を挙げた取り組みが希求されていると考えられます。

こうした背景を鑑みて、2024年4月から和歌山県内の行政機関、地元産業界、および県内高等教育機関が協力し、共創的に取り組む場として「和歌山県地域連携プラットフォーム」の構築を目指したいと思っています。これにより、情報、知識、人材の共有を通じて協働で新たな地域課題の解決をはじめ、地域産業の発展に寄与し、国内外における和歌山県の存在を拡大することを目指していきたくと考えています。「和歌山県地域連携プラットフォーム」の中核を担うのは、和歌山大学であり、その強固なリーダーシップを発揮し、地方公共団体や地元産業界、県内に所在する11の高等教育機関で組織する「高等教育共創コンソーシアム和歌山」とも連携を深め、和歌山県の未来への貢献をさらに強化し、加速化させていきたいと考えています。このプラットフォーム構想では、エビデンスに基づく現状や課題の把握・共有を通じて、紀伊半島における将来の目標を共有し、地域課題の解決に向けた抜本的な強化を図るとともに、関係者が共創して知識や技術の活用・開発、必要な人材の育成、そしてグローバルな思考を通じて、持続可能な地域社会の維持・発展を進めたいと考えています。

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹は、「和歌山県地域連携プラットフォーム」の構築に向けたビジョンの中で、引き続き食農総合研究教育センター、災害科学・レジリエンス共創センター、紀州経済史文化史研究所等が総力を挙げて地域貢献に努め、持続可能な産業やビジネスの創出、地域の人材育成や人材資源の豊富化、地域文化の保護・継承、地域住民の学びへの参画などを具体化させ、積極的に推進していきます。学術・研究を中心とした価値共創を推進しつつ、卓越した研究力と若き学生のマンパワーを生かし、紀伊半島の持続的な発展を支援し続ける覚悟です。

最後に、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹は引き続き、地域の皆様のご支援とご協力を期待しています。今後も地域の発展に寄与する研究・教育を継続して参りますので、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。